



喜多塔の

「兎我野の鹿も夢のまにまに」

先月、梅田の北を流れる淀川河川敷に野生の鹿が出没したとして大きな騒ぎになりました。近年、山間部では鹿が増えすぎており、麓まで出てくる事も多いのですが、まさか市内まで来るとは思いもよらず、驚いた方も多かったのではないかと思います。

そんな鹿ですが、実は古代においては梅田のあたりにも出没していたようです。

古墳時代の仁徳天皇さまが皇后さまとともに菟我野(現在の兎我野町界隈か)で鹿の声を聞いて感動していたら、夕食に鹿の包み焼きが出てきてシヨックを受けたというお話が『日本書紀』等に「兎我野の鹿」という説話で伝わっています。

そのお話に出てくる鹿について、前日譚のような内容で以下の不思議な話も伝わっています。

…むかしむかし、ある旅人が兎我野の地で一宿しているとき、どこからともなく夫婦の鹿がやってきました。旅人の近くで腰を下ろして休んでいました。すると旅人の耳に、夫婦の鹿のやりとりが聞こえてきて、

オス鹿 昨日、僕の体にススキが生えて、真白になる変

な夢を見たんだけど、これヲ吉か凶かな?

メス鹿 あなた、ススキは矢の事で、矢で射殺され、塩を

塗られて食べられるヲ前兆ですよ。今日は

出掛けてはダメです。」

しかし、翌朝、メス鹿の制止も聞かずにオス鹿は出掛けていってしまった。狩人に見つかり、夢と同じく矢で殺され、塩を塗られて食べられてしまいました…

というお話が、日本書紀、摂津国風土記に残っており、そこから、夢で見た事が現実になるというコトワザとして「兎我野に立てる真牡鹿も夢のまにまに」という言葉が奈良、平安時代には語られていたとされています。

この兎我野の地について、梅田は平地だし鹿は来ないだろうから日本書紀に出てくる兎我野は別の場所では?という論文が過去にありましたが、今回の鹿騒動でその論拠は崩れました。そういう意味で、今回の鹿は梅田の歴史的地域からはお手柄といえそうですが、包み焼きにされないうちに早々に山へお帰りと思うばかりです。

「今月の暦」

【祭礼】 当宮秋祭(十五日)…御本社 神事の目

【節気】 寒露(八日)…露が冷気で凍りそうになる頃

霜降(廿三日)…露が霜となって降り始める頃

【雑節】 お月見(四日旧暦八月十五日)…芋名月とも。

秋の土用(十月廿日〜十一月六日)…地鎮はグメ

【大安】 十月五日、十一日、十七日、廿二日、二十八日

【祝日】 体育の日(九日)

「大政奉還百五十年」

慶應三年十月十五日(太陽暦十一月九日)。前日十四日に徳川慶喜より奏上された大政奉還の旨を、明治天皇が勅許し、大政奉還が成立した日からこの秋、ちょうど百五十年となります。

この奉還によって、素晴らしい明治時代が開いたと思われがちですが、この大阪においては市中は大混乱に陥り、経済機能も大阪を離れてしまい、明治十一年に五代友厚らが大阪商法会議所を設立して立て直しを図るまでは、江戸期には考えられない程の大不況となりました。

唯一、光明であったのが「梅田すてんしよ」と、大阪駅などの鉄道の存在で、ここを軸に少しずつ活気を取り戻し、そして今の大阪・梅田につながっています。

幕末維新百五十年目のいま、大阪が乗り越えてきた厳しい時代にも目を向けたいものです。

「七五三のご案内」

当宮では七五三のご祈祷を受付けております。まずはお電話でご予約下さい。

※七五三は数之年(満年齢に一歳足す)で計算します。

・三歳 平成二十七年生(未) 女児(又は男児)

・五歳 平成二十五年生(巳) 男児

・七歳 平成二十三年生(卯) 女児

御本社 ○六一六三六一―二八八七

御株社 ○六一六三七―一五八六

※茶屋町の御株社においては、少人数(親族含め五名まで)であればお受け付け出来ます。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

